令和３年度　算数　授業改善推進プラン

大田区学習効果測定　結果の分析

〇教科の正答率は、４年生、５年生、６年生とも目標値を上回っている。
〇基礎的な学習内容の理解をみる問題は、４年生、５年生、６年生とも目標値を上回っているが、活用力をみる問題では、５年生が目標値より下回っている。
〇問題の内容別正答率、領域別正答率、観点別正答率についての各学年の結果については、次のようになった。
４ 年生…問題の内容別については、どの内容も目標値に達していた。４つの領域別、３つの観点別とも、正答率は目標値を上回っている。
５年生…問題内容別の「分数」「いろいろな形」「角の大きさ」「割合」については目標値に達していない。４つの領域別では、「図形」については、目標値に達してない。３つの観点別では、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」については、目標値を下回っている。
６ 年生…問題の内容別の「割合」については目標値に達していない。４つの領域別、３つの観点別とも、正答率は目標値を上回っている。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
どの学年も正答率は目標値を上回っていて、算数に対して意欲的に学習していると考えられる。	４年生、６年生の正答率は目標値を上回っている。 ５年生は、分数の大小関係や考える問題や身近にあるものの面積を求める問題に苦手が見られる。数直線や図を使って、考えたり、説明したりすることが求められる。	４年生、６年生の正答率は目標値を上回っている。 ５年生は、図形の作図に苦手が見られて、練習問題を通して、繰り返し練習に取り組んでいく。

課題〈今回の調査結果から〉

〇知識・技能に対してはどの学年も目標値を上回っているが、達していない児童の中には、数値がかなり低い児童も見られる。基礎・基本をきちんと定着していけるように、支援していく必要があると考える。
〇データの活用については概ねできているが、４年生は、身近にあるものの重さの推察、５年生は、分数や少数のかけ算・わり算、６年生は、倍数についての理解、分数と小数のきまりなど、各学年で苦手な傾向が異なっているので、焦点を絞って、くり返し練習していく必要がある。
〇授業で学習しているときはよく理解できているように教師も児童も感じるが、その単元の学習後、しばらくすると解き方や考え方を忘れてしまうことがある。定着を図るために、日頃の家庭学習やたしかめプリントで学習を振り返る機会を設ける。
〇自分の考え方をノートや発表で表現することについては積極的でない課題があると考えられる。児童が意欲的に活動できるような、教材の工夫や環境づくりを意識して、指導をしていく必要がある。